



新春のごあいさつ

広報担当副会長
玉城 信光

県医師会の仕事を始めて9ヶ月が過ぎました。これまでも忙しい時期はありましたが、これほどまでに忙しくなるとは思いませんでした。まだ仕事のピークが見えません。

折りしも県内でも産婦人科の医師が不足しています。小児の救急がこども医療センターに殺到し、医師の疲弊が見えてきました。離島における医師不足解消のために沖縄県では離島・へき地医師確保対策事業が立ち上げられました。看護師の不足、助産師の不足、看護単位の改正によりますます看護師不足に拍車がかかっています。

日本医師会の会長選挙があり唐澤祥人会長に代わりました。稲嶺知事のあとに仲井真知事を担おうと医師会が一丸となって？選挙戦を戦い勝ち抜きました。

一方で医師会に入ってなんのメリットがありますかとの質問を投げかける者もいるとのこと。医師会に入っても何のメリットもありません。医者になるときに損得勘定でなったのですかと問いたい。人々の健康を守ってあげたい、病気を治してあげたいという崇高な気持ちで医学部を受験したのではないのですか。

県医師会は行政と沖縄県の医療に関する議論をして、県民の役に立つ政策を立案できるように協力する機関なのです。

私は広報委員会の片隅に座りながら委員の先生方の意見を拝聴し、医師会報が次々と完成していくのを見ているのです。会報制作に慣れたベテランの先生方が多く、私が出る幕はほとんどありません。すばらしい表紙の写真を提供していただく先生方にも頭が下がります。随筆を投稿したり、生涯教育コーナーでためになる話

を目にしています。若手コーナーでは面白い話を聞いています。いろいろなところで医師会にご協力をいただいております。

医師会報を通じて地区医師会の連携、会員とのふれあいができれば楽しいと思います。今年も県医師会は元気で頑張ります。会報も元気印で仕上がると思います。会員が楽しく読んで頂くことをお願いします。



編集委員としての 新年のご挨拶

広報担当理事
村田 謙二

私は元々公正な意見というものに懐疑的な癖がある。人はどんなに自分では色眼鏡無しに物事を見ているつもりでも自分の属している階級や職業、地域や文化、宗教や国籍というフィルターを通して事象を捉えていると思う。それゆえ私は自分の意見を強く主張することは後ろめたいし、立場の違う他人の意見を良く聴いて、自分の考えを修正することは決して恥ずかしい事ではないと信じている。

編集委員を務めてみて改めて人は十人十色であり、それぞれの価値観はこんなにも違うのかと驚きかつ楽しんでる。会報の記事に即して例えると県民との懇談会やマスコミとの懇談会の記事はいつもボリュームがあり長い。解かりきった事に紙面をこんなに使って無駄だと考える人がいる一方で、テーマが自分の専門外でありながら日頃気になっている事柄である場合は、あのボリュームの中に自分の知りたい情報がたくさんあり、真っ先に読むと、ありがたがる人もいる。懇談の場での一人ひとりの意見は、話し言葉のせいもあって長すぎて読む気にならないと嘆く人もあれば、医療の外部の人はこのような捉え方をするのかと患者側の立場を知ることができて貴重だと評価してくれる人もいる。

立場が違えば同じ医業に携わっているとはいえず求めるものは千差万別である。編集方針を多数決で決めるのは容易い。しかしそれでは同じ価値観を共有する者だけのための雑誌になり、多くの読者の共感を得るのは難しいのではないか。

この会報は読者が皆表紙から最後のページまで読み通すものでなくても良い。無論編集者としては最終目標はそこにおいているのだが。現実的には読者の誰もがどこか少なくとも一つ記事を読んで、ためになった、勇気が出た、心が温まった、希望が出た、と思えるような紙面作りをしたい。それが私の編集委員長としての夢である。ともあれ読者の声がお聞きしたい。今年もどうぞご愛読を。



2007年新年のご挨拶

広報副担当理事
野原 薫

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

昨年4月から宮城信雄会長を始め、新執行部になり、広報委員会も玉城信光副会長、村田謙二担当理事の下、活動しています。代議員会で要望のあった県医師会史編纂委員会も友寄英毅委員長、中村義清副委員長の下、日本復帰後の県医師会史発行に向けてスタートしました。私自身、昨年6月に6年間務めました県小児科医会々長を辞任しましたので、フリーの立場から発言していきたいと思えます。学校保健では小児の生活習慣病対策、予防接種では広域化及びMRワクチン接種率の向上を重点的に取り組む所存です。会員の皆様、特に診療所からのご投稿、ご意見をお待ちいたしております。

皆様にとって今年も穏やかで良い年でありませう願っております。



新年のごあいさつ

広報委員(北部地区医師会)
比嘉 敏夫

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成18年4月から北部地区医師会の広報担当として広報委員会に参加させて戴いています。

また新しい年を迎えたわけですが、ひとつ歳をとるのが別にうれしくない年令にそろそろなってきました。頭の中は若い頃と変わらないつもりですが肉体的にはしっかり年寄りになったと感じています。先日まわってきた新春随筆の募集対象は亥年生まれの先生方でした。そのリストの中に大学で入学時から親しくしている友人のT君の名前がありました。私も来年は同じ立場になるのですが、彼も還暦を迎えるんだと妙に感慨深いものがありました。彼とはたまに会いますがいたって元気で、赤い帽子とちゃんちゃんこは絶対に似合わないだろうと思いつつも、ちょっと想像して笑ってしまいました。

さて仕事の面では昨年は大波をくらいながらの一年でした。診療報酬の改定は私の勤めている療養型の病院にも大きな影響がありました。医療費抑制の名目で13万床の介護型病床の廃止、25万床から15万床への療養型病床の削減が国から示されました。療養型での実際の動きとして入院患者さんを3医療区分に分け、軽症と判定される医療区分Ⅰの患者さんは自宅や施設へ移し介護保険で対応していく方向がだされました。医療区分Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各診療報酬の差は大きく、医療区分Ⅰの患者さんを多くかかえている病院は大幅な経営の縮小や介護型への転換がせまられます。退院を求められている医療区分Ⅰの患者さんもかなり手のかかる方が多く、受け皿としての施設は数も少なく内容的にも充分とは言えません。まして自宅での家族の負担は大きなものになります。最近「医療難民」「介護難民」という言葉が使われていますが患者さんへの退院の話を家族とする時に、ど

ここに移せばいいのか悩むことが多くまさに「難民」を実感します。この制度を考えついた方々は頭はとていいが性格はかなり悪いだろうと勝手に思っています。ただ波をかぶってばかりでは病院ごとに沈没してしまいますので皆で知恵を出し合い色々苦勞しながらやっていき良い一年にしたいと思っています。

月一回の「沖繩県医師会報」の編集会議への参加が主な仕事ですが、より一層充実した会報にしていきたいと思えます。会員の皆様には執筆原稿依頼の際にはよろしく御協力をお願い申し上げます。



「あらたまの年に、炭と昆布飾て、心から姿若くなゆさ」

広報委員(中部地区医師会)
比嘉 靖

沖繩県医師会会員の皆さま新年明けましておめでとうございます。

旧年中は4月の地区医師会内の理事の入れ替えに伴い、私は広報担当理事となり、県医師会報広報委員を拝命することとなりました。

旧年中は担当内容の変化に戸惑い、診療の現場では診療報酬改定、介護保険改定などの対処に追われ、広報委員会では諸先輩委員の先生方の議論にはほとんど参加できず、ただうなずいているだけで9ヶ月でした。新年を迎え、今年こそは委員としての職務を果たそうと思っています。沖繩の新年の言葉に「あらたまの年に、炭と昆布飾て、心から姿若くなゆさ」があり、新年を迎え、縁起物(環境)を新たにすれば、心身ともに若返ると、私は解釈しています。この気持ちをもって、一年間、一人前の広報委員として「沖繩県医師会報」の作成に携わろうと

思っております。

まずは、医師会報の原稿依頼、新聞への投稿依頼など会員の先生方には御願いに上がる事が多くなると思いますが、その際にはご協力御願ひ申し上げます。



新年のご挨拶

広報委員(浦添市医師会)
池村 剛

新年あけましておめでとうございます。

昨年は4月に医療報酬のマイナス改定を含む医療制度改革が行われました。リハビリ期間の短縮は社会問題になり、普段は医療バッシングのマスコミでさえ制度に対する批判で溢れました。また、制度改革は医療分野だけではなく介護保険への影響も心配される所です。私事ですが、昨年は父親のために介護保険を多く利用させていただきました。家族にとって、介護にかかわる方々の支援は本当にありがたく感じました。介護保険の良さを実感すると同時に、制度が利用者にとって使いやすい形で継続されて行ってほしいと思えます。

数年前から開業をめざす先生方が増えていきます。度重なる医療制度改悪の中で苦勞されておられる方も少なくないようです。逆風に立ち向かうために必要な情報は十分に得られているのでしょうか。この大変な時期を乗り切るうえで役立つ情報を発信することも、医師会報の大切な役割だと思っております。どのような情報が必要か、ご要望があればお寄せください。

今年はどんな一年になるのでしょうか。楽しいこと嬉しいことでいっぱい平成19年であってほしいものです。



新春のご挨拶

広報委員（那覇市医師会）
玉井 修

沖縄県医師会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

去年は県民との懇談会、マスコミとの懇談会、県民公開講座などに多くの記事を掲載させて頂きました。お陰様で、県民との懇談会は県民の代表から医療に対する率直なご意見を頂戴する貴重な場として徐々に成長してまいりました。また、マスコミとの懇談会は医療とマスコミが県民福祉の共通した目的のために意見交換を行う場として成長してきました。県民公開講座は毎回700名から1,000名の多くの参加者があり、医療情報の伝達のみでなく医師会と県民との距離を近づけるふれあいの場として、確固たる地位を築いてきたと思っております。

沖縄県医師会報の中でも多くの紙面を割いて頂き、活動の内容をご報告させて頂き大変感謝しております。毎回記事が長く、目を通して頂くのに大変な苦勞をおかけして恐縮しております。全てを読んで頂かなくとも、記事の中にかご興味のある部分があればその部分だけでも読んで頂き、会員の皆様にも何かしら喜んで頂けるよう紙面を工夫してきました。今後も会員の皆様の目を楽しませることが出来るように工夫をして参ります。

沖縄県医師会報は、長い伝統と歴史をしっかりと踏まえ、更に若い世代の医師会員に興味を持って読んで頂けるような紙面をめざし、色々な試みを行っております。今後も会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



読考書

広報委員（南部地区医師会）
照屋 勉

明けましておめでとうございます。去年は、「いじめ・自殺問題」、「ゆとり教育の崩壊・食育の問題」、「ライブドア・村上ファンド問題」、「北朝鮮・イラク問題」、「米軍基地移設問題・郵政反対派復党問題」、「増税・年金問題」、「県庁裏金・官製談合問題」、「医師逮捕・医師不足問題」、「国民皆保険・介護保険の崩壊問題」などなど、例年以上に暗いニュースのオンパレードでした。「地上デジタル放送開始!」、「メジャーリーグへ日本人選手大量流出!」、「オシムジャパン、活躍の予感!」などなど、個人的に気になる明るいニュースの少ない事、少ない事……。とても、さみしい限りですが、今年に淡い期待を抱いております。

ところで、小生の2007年の年頭の言葉は、『読考書』（BY池間誠氏：一橋大学教授）……。『読書』～書（本）を読む……。『読考書』～バランスよく、読み・考え・書くべし……。『学ぶなら、本!』～心を静めて、心を磨きながら、これまで以上に「本」と仲良くしていきたいと考えております。今年も、何卒ご支援・ご協力・ご指導・ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



新年のごあいさつ

広報委員（国療沖縄公務員医師会）
久場 睦夫

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、学校における「いじめ」問題が大きくクローズアップされましたが、医療界も「いじめ」をうけているように感じるのは小生だけでなく、等しく医師会の先生方が感じているのではないのでしょうか。昨年、診療報酬改定がなされ、保険点数の削減、療養病床の見直し、リハビリテーション期間の制限等が施行されました。待ったなしの急な変更で、医療界に様々な混乱を招いています。WHO等世界が認める最も優れた医療制度でもって国民の健康を守ってきたところですが、財政難を理由に医療費の削減が邁進しています。我が国の医療界は先進国に比し、極度に低い医療費（OECD加盟30カ国中17番目に低い）で世界に冠した医療を提供してきたのにである。医療費削減は医療の質の低下、医療事故の多発等々、医療の荒廃を招く事が自明である。勤務医の過重労働、産婦人科や小児科の医師不足等もさらに悪化するであろう。我々会員は、開業医・勤務医を問わず医療界を真に「改革」していくために医師会を通して団結していきたいものです。

本年もよろしく願い申し上げます。



新年のごあいさつ

広報委員（琉球大学医師会）
植田 真一郎

あけましておめでとうございます。

本年も、と言いたいところですが、昨年は様々な事情で広報に貢献できていません。申し訳ありませんでした。言い訳ばかりですが、なにかしら月初めの週は原稿や各種申請の締め切りが重なり、うまく調整できませんでした。新春そうそうお詫びを申し上げます。

昨年、私が所属する臨床薬理学会でもジェネリック医薬品がシンポジウムとして取り上げられ、いろいろ議論がありました。現在のジェネリックと先発品との比較は万全とはいえ、「全く同じもの」とは言えないところがあります。

本年からは、その違いを先発メーカーが強調することも難しくなるので、ますます正しい情報を得ることが困難になりそうです。

ジェネリックを推進することは、いってみればpolitically correctであり、批判することそのものがタブー視されつつありますが、バイアスのかからない評価とその使用が実現できればと思っております。



新春のご挨拶

広報委員（公務員医師会）
上田 真

あけましておめでとうございます。

県立中部病院の上田と申します。昨年より広報委員を拝命し微力ながらお手伝いしております。これまで公務員医師会の仕事を少ししたことはありますが主に自分の所属する病院への伝達程度でありました。お話がありましたときには自分のような若輩者が務まるかどうか不安でしたが、県医学会で県医師会にはお世話になり、臨床では開業医の先生方にお世話になっておりますので、少しは恩返しになるかと思ひ、お引き受けしました。

編集会議では委員の先生方がどのようなことを会報に載せるか、読者がどんな興味をもっているかを議論されています。毎回いろいろな話が聞け大変勉強になっています。最近では修学旅行生のはしか発生の件が話題となり、本当に興味をそそることに着眼しておられるなど感心しました。ほとんど聞く方ばかりでたまには自分も意見を言わなくてはいけないと思ひますが、知識・アイデアが乏しく反省しきりです。幸い自分の病院から記事が載ることが何回かありましたので、その最小限の仕事はできたかなと思ひています。

ベテランの先生方にいろいろ教えてもらいながらではありますが、さらによい会報をつくるべく決意を新たにしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



ワクワクに感謝、
ドキドキにありがとう

広報委員（那覇市立病院医師会）
久高 学

人間って不思議ですね。お正月になるとどこに行っても「おめでとうございます」「いい年ですね」とにこにこ笑顔です。ところが1年経って年末になると、「今年も嫌なニュースばかりでした」とか「来年こそはいい年にしたいですね」と言います。大晦日のテレビを見てもそうです。ゆく年くる年のアナウンサーは神妙に語ります。遠寺の鐘がポーンと鳴ります。くら〜いイメージです。それが年が明けた瞬間に明るく「みなさん〜、あ〜けましておめでと〜ございます〜す」です。しらじらしいですよ。年始だからおめでたくって年末だから暗くなっちゃうんですか？違いますよね。要は心の持ち方ですよ。でも人間って弱いから、他人やマスコミに振り回されます。

私にとって昨年は、いい年でしたよ（毎年言ってます）。たくさんの人との出会いがありました。沖縄の方、本土の人、言葉も通じない外国の方々。たくさん学びがありました。ワクワクに感謝します。ドキドキにありがとうって言ってます。今年もどんな出会いがあるのかとても楽しみです。

診療報酬云々と愚痴をこぼしてもどうもなりません。暗い悲しいニュースをインプットしちゃいけません。明るい朗らかな心が、道を拓き幸福をもたらします。心が先なんですよ。沖縄のティーダの様に明るくキラキラした出来事が、今年も皆さんにたくさん起こります様にお祈りいたします。